

---

# 東方輪廻録

夢念

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方輪廻録

### 【Nコード】

N7522V

### 【作者名】

夢念

### 【あらすじ】

突然の交通事故によって17年の短い人生を終えた少年。

彼が行き着く先は……？

## プロローグ

(あ)

こちらに向かってくる車に気づいた瞬間、俺は乗っていた自転車と共に撥ね飛ばされた。

クラクションの音はせず、耳には肉と金属が衝突する鈍い音が届いた。

時間がまるでスローモーションのように流れて、周囲の風景がぐるりと回る。

衝突により俺は自転車から宙に放り出されていた。

地面に叩き付けられ、転がる。

数瞬の後、今まで体験したこともないような痛みが全身を襲い、蹲る。

「……！」

その痛みにより助けを呼ぶための悲鳴さえ上げられない。

息をするだけで全身に激痛が走った。

痺れと痛みは体全体に広がり意識が朦朧とする。

筋肉が痙攣し関節が少しでも動く、悲鳴を上げたくなくなるような

痛みが突き刺す。

あまりの痛みに涙が出るが何も変わらない、涙で歪んだ視界の端で轢いた車が走り去っていくのが見えた。

必死で声を出そうとしても喉から出てくるのは血と歯の欠片だけだ。

周りには俺の声は届かない。

ただ俺に死が迫りつつある事を感じさせるように体から熱が失われていく。

（死にたくない）

ただその一心で体を動かそうとするが折れた腕が、力の入らない足がその邪魔をする。

動かそうともゴムの様な感覚しか返ってこない。

（駄目なのだろうか）

痛みさえ感じなくなった意識の中でそのような事を思いながら、俺は脱力し目を閉じる

体を動かす余力はもう残っていない。

後は死ぬだけだ。

そう思い、諦める俺を暗闇が優しく向かえた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7522v/>

---

東方輪廻録

2011年10月9日13時43分発行